

昭和二十五年六月八日(第三種郵便物認可)
令和七年六月十五日印刷納本
令和七年六月二十五日発行

(毎月一回二十五日発行)

第七十六卷

第七号

第九〇三号

令和7年
(2025年)

7
月号



(学生書壇)

幼 児・小学生
中学生・高校生
のための書道誌



公益財団法人 書壇院

公益財団法人書壇院は、書道の研究、教育、普及によって、書道芸術を通し、人格を高めることを目指しています。

古典への招待

科か挙きよ



中国では古くから官吏(役人)が地方や国の政治を担ってきた。この官吏になるための試験を科挙といっています。

科挙は随の文帝の時代の587年から清の1905年までの1300年以上にわたって三年に一度行われていました。

科挙制度以前の中国は、貴族が地方の政治権力を握っていましたが、科挙が始まってからは皇帝が官吏を使って直接、地方や国を治めることになりました。

官吏になれるのは男性のみでしたが、科挙は身分を問わず誰でも受験でき、及第(合格)すれば庶民でも才能次第で高位の官僚になれる、という画期的な制度でした。

試験の内容は中国で重んじられた儒教の經典の解釈や詩や文章を作ることなど、膨大な量の知識や文章力が必要ですから、受験勉強は小さな子供の頃から始まりました。

中国では立身出世するには官吏になることがほぼ唯一の方法でしたから、競争も激しくなかなか一度で合格することは難しいことでした。なかには70才の老人になってやっと及第した、というような、一生を受験のために費やした人もいました。

試験の答案は回答用紙にきっちりきれいな文字で書かないと、試験官に内容すら読んでもらえなかったといっています。ですから学生は文字を美しく正確に書く練習も行っていました。

中国の詩人や書家が大抵、官吏でもあったのは科挙という制度のおかげでもあるのでしょうか。

(彩綾)

鑑賞作品

たけくらべ —樋口一葉(明治時代)—



明治二十八年、一葉が二十二才の時に書いた小説の題名です。一ページの初めに「たけくらべ」と仮名で記されています。その直筆の文字が表紙にも押されています。「たけ」を大きく書き、「くらべ」三文字をつなげています。細線でシンプル、自然な美しさがあります。また一葉の芯の強さも感じます。字源(元になる漢字)は「太計久良部」です。現代では「丈比べ」と書きます。丈は身長のこと、せいくらべの意です。小説は、十四才の美登利と十五才のお寺の跡継ぎの信如の、淡い恋が、細かな毛筆で書かれています。平安文学が好きだった一葉は、伊勢物語の次の和歌からヒントを得たと言われています。

*筒井筒 井筒にかけし まろが丈 過ぎにけらしな 妹見ざるまに

*くらべこし 振り分け髪も 肩過ぎぬ 君ならずして 誰かあぐべき

(複製版表紙引用)

(竹子)

令和七年 学生書壇 七月号 目次

古典への招待……………表2

鑑賞作品……………1

競書課題

毛筆部 競書課題……………2

硬筆部 競書課題……………6

高野切第三種……………8

特待生紹介……………8

第九〇三回

優秀作品・批評……………9

成績発表……………16

課題予告……………24

バーコード券発行案内……………26

出品のしかた……………27

出品票……………28

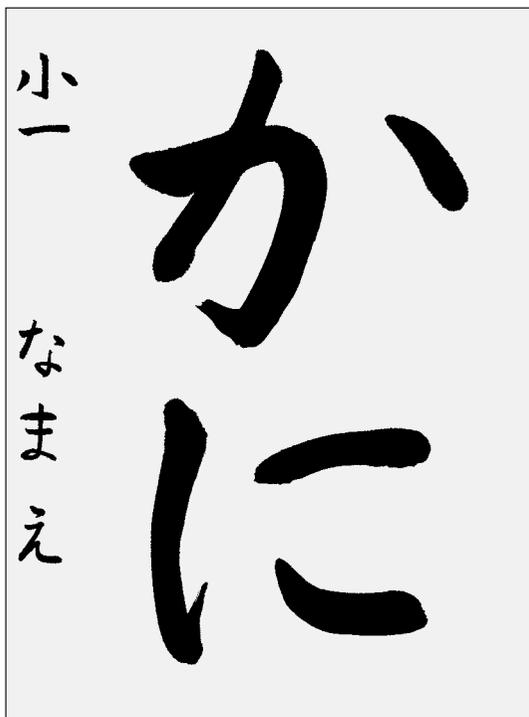
第九十二回学生展公募要項……………表3

毛筆部

幼児

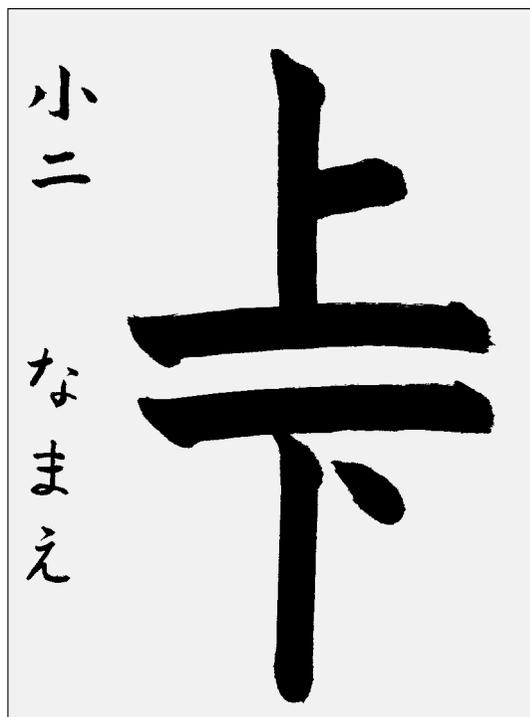


小学一年

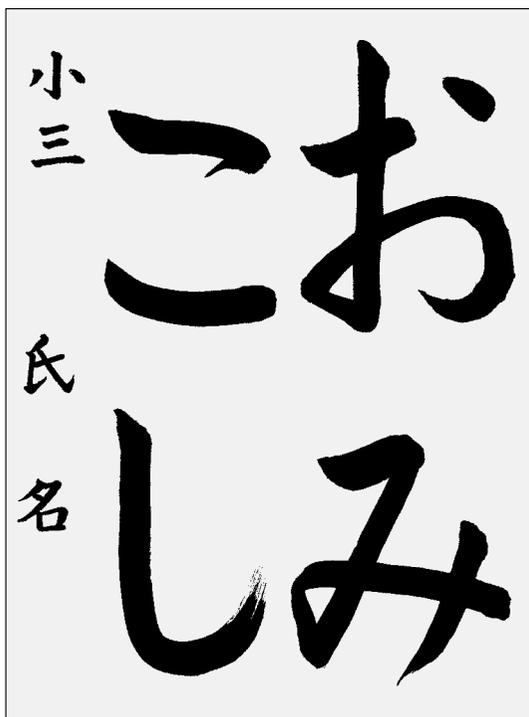


※小学生の級位は硬筆部と同じです。
※出品のしかたは27頁をご覧ください。

小学二年



小学三年



トト上

競書課題 (7月15日締切) くわ やま ぎ ぎよ 桑山戯魚先生書

小五
氏名
短手
紙い

小学五年
么糸糸紙紙紙

小四
氏名
夕
空や

小学四年
六六六空空空

中一
氏名
公園を
散歩

中学一年
楷書

小六
氏名
旅行
楽しい

小学六年
フフフ旅行

中学二年 — 楷書 —

夏休み
旅行記
中二
氏名

中学三年 — 楷書 —

放課後
部活動
中三
氏名

高校 — 楷書 —

夏雲多
奇峯
高。氏名

漢字 課題説明

高校

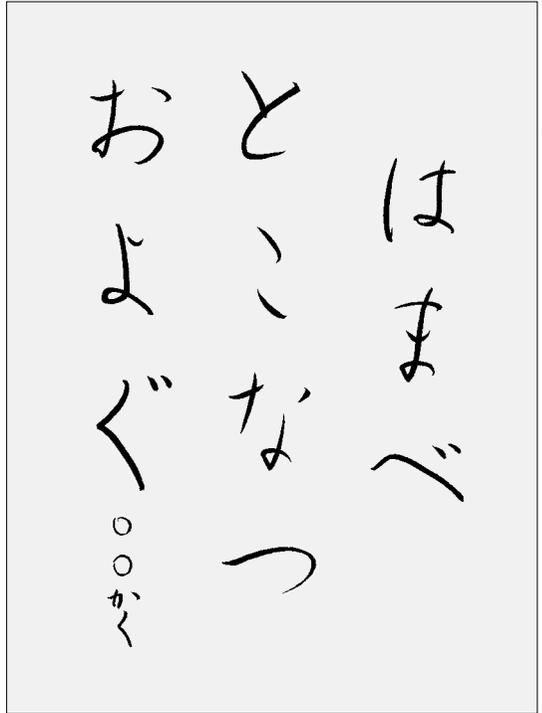
夏雲多奇峯

夏雲奇峯多し
かうんきほうおお

夏の雲にはいろいろな形のものがある。

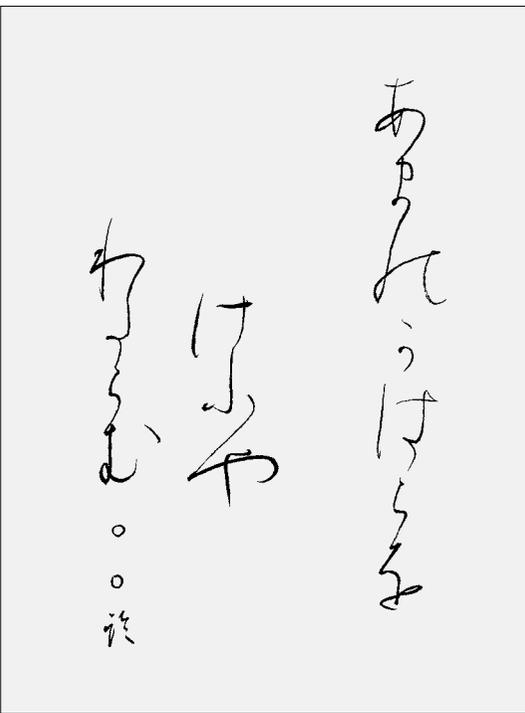
競書課題 (7月15日締切)

かな
中学



さか い ま なみ
酒 井 真 波 先 生 書

かな
高校 高野切第三種 (8頁参照)



ほし の 静 代 先 生 臨
星 野 静 代 先 生 臨

かな 課題積文・解説

中学

はまべ とこなつ およぐ

筆を立てて、ゆったりと運びましょう。

と〓一筆目のかたむき方が大切です。

つ〓右肩が上がり過ぎないように。

お〓最後の点は前からつながるような気持ちで。

高校

いつしかと またぐころを はぎにあげて

あまのかはらを けふやわたらむ

〔解釈〕

はやく逢いたいとはやる心で脛まで衣をまくり上げて、彦星

は天の川を今日渡ろうとするのであろうか。

文字の幅と長さの大きさをよく見ましょう。

